

第8回「民都・大阪」フィランソロピー会議 議事概要

1 日 時 令和2年7月22日（水） 10時から11時まで

2 場 所 Web開催

3 出席者

会議メンバー

池内 啓三 学校法人関西大学理事長
大槻 文藏 公益財団法人大槻能楽堂理事長
川平 眞善 大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長
久保井 一匡 公益財団法人小野奨学会理事長
小林 眞澄 大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長
崎元 利樹 公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長
白井 智子 特定非営利活動法人新公益連盟代表理事
施 治安 「大阪を変える100人会議」顧問
出口 正之 国立民族学博物館教授
藤田 清 公益財団法人藤田美術館館長

4 議題

- 議題1 「民都・大阪」フィランソロピー会議のメンバーの選任について
- 議題2 会議規約の改正（案）について
- 議題3 非営利セクターを取り巻く法人格の縦割りの現状について
- 議題4 フィランソロピー大会について

5 会議資料

次第

- 資料1 「民都・大阪」フィランソロピー会議メンバー名簿（案）
- 資料2 「民都・大阪」フィランソロピー会議規約（改正案）

6 議事要旨

議題1 「民都・大阪」フィランソロピー会議のメンバーの選任について

- (1) 会議メンバーであった公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長 堀井 良殷 氏、大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長 福岡 弘高 氏及び松井 芳和 氏の退任に伴い、会議規約第6条第2項の規定に基づき、同協会理事長 崎元 利樹 氏、

同局総務・企画担当部長 川平 眞善 氏及び小林 眞澄 氏がメンバーとして選任された。(資料1)

議題2 会議規約の改正(案)について

- (1) 事務局から資料2に基づき、会議規約等の改正(案)について説明。内容について、了承され、同日付けで施行することとした。
- (2) 議長から、公益財団法人関西・大阪21世紀協会顧問 堀井 良殷 氏を改正後の会議規約第6条第2項の規定に基づき顧問として推薦され、承認された。

議題3 非営利セクターを取り巻く法人格の縦割りの現状について

- (1) 議長より、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために休業要請が行われた際の非営利セクターを取り巻く法人格の縦割りの現状についての報告及び今後のフィランソロピー会議についての提案があった。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり
 - ・大阪府の休業要請に伴う支援金対象は当初は企業だけであり、非営利セクターは対象外となっており、フィランソロピー会議で「民都」を目指してきた当会議としては存在意義が問われる事態であると認識している。
 - ・最終的には非営利法人への支援が実施されたものの、大阪府は全国で一番最後であり、非休業要請に対する支援という妥協の産物であり、当会議がやってきたことが、府・市に十分伝わっていなかったのではないか。
 - ・文化芸術分野においてもほとんどの行事が中止または延期となった。いろんな支援の形態があるが、申請方法をはじめ手続きが大変わかりにくく、手間もかかるということで、個人事業主を中心に支援を受けたくても諦めているというケースが多く見受けられた。
 - ・文化芸術の世界では長い歴史の中でいろいろと大変なことが起こってきたが、今回のコロナ禍において、YouTubeなどを活用して活動を行うなどの新しい発見もあり、いろんなことを模索しながらやっていかなければならない。
 - ・各救済策があったが、いわゆる各種団体等という形で非営利セクターが括られてしまったことは、今後第2波、第3波と言われている状況の中、今回のことを今後活かされていかなければならない。今後は誰が見てもきちんとわかりやすいような形や表現をしてもらい必要がある。
 - ・コロナ禍の中、非営利セクター、特にNPO法人などは困っている人々を助ける という活動をやっている団体であるので、ニーズは非常に高い一方で、事業費が全く入ってこない状況になってしまった。そのような中で、クラウドファンディングやファンドレイズを始めるようなことが起こった。これは、定額給付金を辞退したいという

世論が結構あったため、その受け皿になろうということで、ヤフーなどのいろんな団体が困った人たちのために寄附をしてくださいということで立ち上がったが、現状としては、定額給付金頼みというところでは、全然集まらなかったというような実態がある。日本中、世界中が大変な状況であるので、大変な思いをしている人に、なおさら負担を強いるということもできないということで、誰にお願いをしていいのかわからないというところがあり、以前にこの会議の中であった、こういうときに影響を受けにくい財団で逆に寄附先に困っているというようなところもあるというような話があったが、そういう団体とのネットワークを民の方で作っておくとか、このフィランソロピー会議が、その一つのプラットフォームになるというようなことを今後の話として考えていくべきではないか。

- ・ 大学法人への支援については文部科学省を中心に各種支援があり、一通り落ち着いた状況にあり、春学期の各種問題はほぼ解消できたのではないかと。問題は秋学期以降あるいは来年度以降に困っている学生をどう救済するのかという問題がある。コロナ禍によりリモート授業と対面授業をどう組み合わせしていくのかということで、進むべき方向性は出てきたが、急に動き出した感じはある。教育界はこれから大変なことになると思っており、頑張らないといけない。
- ・ 影響しない業種はほとんどなく、来年、再来年と大変なことになってくる中で、日本全体を再デザインしなければならず、東京一極集中の弊害が相当出てきているので、やはり日本全体のことを考える上で、大阪がしっかりと考えていかなければならない。
- ・ このような会議体は全国にはなく、大阪でしかできないということで立ち上がった経緯がある。中間支援組織から見ると魅力的で貴重な存在である。例えば大阪や関西で活動している支援組織で引き継いでもらい、引き続き公とは連携を取る形で展開していくというようなことも考えていくべきではないか。
- ・ 議長から、会議メンバーにはボランティアで参画いただいているが、会議事務局である副首都推進局の組織が今後不透明であり、この会議自体が終了しかねない状況にある中、この会議を今後どうしていくのかということを考えていく必要があり、中締めのことを行うことも考えるべきではないか。例えば、会議のこれまでの活動についての報告書のようなものが作れないかとの提案があった。

(3) 今後の対応

議長からの報告書作成などの提案については、内容とスケジュールを送付することとする。議長提案内容について検討いただき、また、メンバーからの提案を募ることとし、次回会議において議論を行うこととする。

議題4 フィランソロピー大会について

(1) フィランソロピー大会の今後の開催について議論のうえ、今般の新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、今年度はフィランソロピー大会を開催しないこととする。

(2) 意見等の概要は以下のとおり

- ・今回の大会では、SDGsに関して企業とNPO法人等との交流やマッチングの場ということコンセプトにしてパネルディスカッションやNPO法人等のブースを設置して企業と交流することを企画していた。
- ・Web開催など何か工夫できないかと考えたが、今回の企画は現場でしかできないものであり、開催は難しいのではないかと考えた。

(3) その他

《SDGs共創プロジェクト「TEAM EXPO 2025」について》

- ・フィランソロピー大会に向けて、公益財団法人2025年日本国際博覧会協会（以下「協会」という。）との意見交換の中で、協会において「TEAM EXPO 2025」という取組みがあり、SDGs達成のために機運を盛り上げていくことやあらゆるセクターの活動を発信していくような取組みと聞いている。フィランソロピー大会が開催される場合はその取組みと協調できるという話があり、協会とは、引き続き、意見交換・情報交換していく。
- ・中間支援団体と公とを繋げていくのが私たちの役割であり、大阪・関西におけるNPO法人や公益団体の有益な活動を2025年の万博を通じて世界に情報発信していけるような取組みを行っていくべき。
- ・「TEAM EXPO 2025」は2つの意味合いがあり、一つは関西一円でチームとして万博を盛り上げていくということ、もう一つはソーシャルイノベーションに挑戦する事業者を支援するプロジェクトパートナーとしてNewsPicks Studios、Makuakeなど7社と包括連携協定を締結しており、社会変革や新しい社会を作っていこうというプロジェクトを行っていくことがある。その中の一つのNext Commons Labという団体があり共同代表をすることになっているので、いろいろ提案したいと思う。
- ・「民都・大阪」フィランソロピー会議の議論からすれば、万博の位置づけも企業のPRとしての万博から公益のための万博になっていくのではないかと考えており、企業だけではなく世界の大型財団等がパビリオンを出したり、非営利セクターが協力し合ってパビリオンを出すような万博になってほしいと考えており、万博の歴史にとっても素晴らしいことになるものと期待している。